

機関番号：43934

研究種目：若手研究(B)

研究期間：平成20年度～平成22年度

課題番号：20700231

研究課題名(和文) 19世紀ファッションプレートのデザイン解析における服飾研究的アプローチ

研究課題名(英文) Approaching the design of fashion plates in the 19th century from the mode

研究代表者

大澤 香奈子 (OHSAWA KANAKO)

名古屋女子大学短期大学部・講師

研究者番号：00410697

研究成果の概要(和文)：甲南女子大学所蔵のモード新聞 *Journal des Dames et des Modes* パリ版を資料とし、服飾の諸側面をテキストとファッション・プレートの両面から分析することによって、スタイルの段階的推移を数値的に示すことができた。さらに服飾における色の役割、装いのコンセプトに係わる新たな知見が得られた。本研究で行った調査は *Journal des Dames et des Modes* の一部であり、得られた諸結果は資料が発信した、限定された服飾についてのものであるが、調査結果は資料のデータベース化に活用できるものとする。

研究成果の概要(英文)：*Journal des Dames et des Modes*, Paris edition, owned by Konan Women's University, is a document allowing us to obtain consecutive data that are almost completely available. The aim of this research is to analyze quantitatively about the style, a color, and expression in fashion. By analyzing both the texts and the fashion plates in this study, I could make clear the change of style numerically. And I found the role to represent the new of the colors in fashion, and the concepts in the costume design. This research is about part of *Journal des Dames et des Modes*, the results are within the limits of its document. But the findings can utilize for making the database of *Journal des Dames et des Modes*.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：服飾文化

科研費の分科・細目：図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：服飾、形態、色彩、表現、情報

1. 研究開始当初の背景

Journal des Dames et des Modes パリ版は、18世紀末から19世紀中葉までの女性服飾が劇的な形態上の変化を呈した時期に刊

行されたモード新聞である。そこにはその時々のモードが記録されている。これに添えられたファッション・プレートはすべて *Costumes Parisiens* とのタイトルで、服飾の

スタイルの推移を克明に表している。多くの服飾史研究書には、近代の女性服飾の推移がスタイルの形態的特徴の変化で説明されている。しかし、スタイルの推移が数値的なデータで検討されたことは少なく、モードについての定量的な分析は手薄であった。

2. 研究の目的

本研究は、甲南女子大学が所蔵する *Journal des Dames et des Modes* パリ版 1797-1839 (以下 *Journal des Dames et des Modes*) を資料として、服飾の形態、色、表現の諸側面について定量的な分析から考察を行なおうとするものである。

甲南女子大学図書館が所蔵する *Journal des Dames et des Modes* がほぼ完全なたちが揃っており、時系列データを得ることが可能であることから、これを対象とし、服飾の形態、色、表現の諸側面がモードとしての服飾を成す要素と考え、これらについて定量的な分析を行い、モードとしての服飾を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 分析資料の選定

Journal des Dames et des Modes は 40 年間という長期間にわたり刊行されたため、その情報は膨大である。分析には適切な資料の選定が必要であり、それを目的に資料の基礎調査を行った。その結果、*Journal des Dames et des Modes* の中で終刊までほぼ変わらずに見られる情報は、MODES とタイトル付けられたトピックと、ファッション・プレート *Costumes Parisiens* であった。

MODES は *Journal des Dames et des Modes* に常時掲載された唯一のトピックであり、その編集のあり方から、それが構成の核と位置付けた。*Costume Parisiens* は、描かれた女子服をアイテムとディティールから分類し、

コーディネートパターンをおよそ把握した。同一のコーディネートパターンを集約することで、装いの目的別による衣装の差異を除外した装いの時間的変化を見ることが出来る。最も明確に衣装の TPO がうかがえ、該当する *Costumes Parisiens* も多かったのが、イヴニングドレスタイプ・半袖・無帽の分類群であった。この分類群は夜会服に相当するコーディネートである。*Costumes Parisiens* には必ずキャプションが記されていた。キャプションは描かれた服装を説明するだけでなく、描かれた図像では表わし得ない、装いについての情報を表すなどの重要な情報の一部となっていた。

これらから、夜会服に相当するコーディネートの *Costumes Parisiens* を MODES と併せて分析資料とした。

(2) 形態についての分析

スタイル推移の中で見られる形態的变化から、ウエストラインの下降、袖のボリュームの膨大化を *Costumes Parisiens* に描かれた図像のプロポーショナルから検討し、キャプションから付加価値情報の推移を検討した。

プロポーショナルは設計のための人体計測マニュアルにより計測ポイントを設定した。計測調査は 1800 年-1838 年刊行分に添えられ夜会服タイプの *Costume Parisiens* から、計測が可能な 145 点を最終的な調査サンプルとした。

(3) 色についての分析

Costumes Parisiens の衣装の測色調査 (分光測色計 MINOLTA CM-2600 d を用いた) と、MODES のテキストにある色情報から服飾における色の特徴を検討した。

測色調査は 1800 年-1838 年刊行分に添えられ夜会服タイプの *Costume Parisiens* 417 点について行った。この調査は *Costumes Parisiens* の彩色の色の科学的分析ではなく、

その傾向を捉えることを目的に行った。

(4) 表現についての分析

当時のモードにおける総合的な装いのコンセプトを「エレガントな装い」と仮定し、MODES のテキストからどこまで服飾表現特徴を捉える有用なデータが得られるかを検討した。

分析は1830年と1832年発行分に掲載されたMODESのテキストから装いの評価語を含む一文を集約し、Text Analytics for Surveys (IBM SPSS) を使用してテキストデータ分析を行った。

4. 研究成果

(1) 形態について

エンパイア・スタイルから新しいスタイル、つまりロマンチック・スタイルへの推移の過程において、ウエストラインの下降と袖のボリュームの膨大化の変化が見られるⅠ期(1820-1829)、ウエストラインは自然な位置で落ち着き、袖が引き続き膨大化するⅡ期(1830-1834)、袖が縮小化に転じたⅢ期(1835-1838)とする変化の段階を捉えた。

Costume Parisiens のキャプションから、図像の形態的变化の時期とほぼ同じく変化が表れたことを捉えた。キャプションには、装いの目的や衣装の用途から徐々にアイテムのより詳細で具体的な説明が記されるようになっていた。この変化は読者も肯定的に捉えていたと推察でき、付加価値となる情報はモードの衣装を着るための素材や販売店の詳細な情報へと推移したことがうかがえた。

(2) 色について

調査結果から白と赤の汎用性を捉えた。白は当時のモードにおける流行として一般的にも知られており、赤の衣装は晴れの衣装として多用されてきたことも広く知られてい

るが、結果はこれに則したものであった。赤には色調の異なる流行色があり、織物の染色の薄さや濃さは素材の質を決定づけるものではなくていたことがうかがえた。色調が変わっても赤という色が示してきた豪華さが失われなかったために赤の汎用性が表れたと理解した。

一方で、短期的に流行した色があったという新たな知見を得た。発生した短期的流行色をうかがうと、当時既に染色の面では多彩なカラーバリエーションを市場に送り出すことが可能であったこと、濃く鮮やかな織物に価値がおかれた状況になかったことが推察できた。この短期的流行色は、新しさをアピールできる要素と理解した。モードにおいて新しさは一つの価値であり、色はその価値を表し他との差異化を図る手段の一つであったと推察した。Costumes Parisiens と MODES のテキストの色情報から得たこれらの結果から、服飾の色には、古くから嗜好された色のイメージによりキャラクターを演出する役割と、新しさというおしゃれ要素を表現する役割のあることをうかがうことができた。このような服飾における色の役割は現代に通じるものであるとの示唆を得た。

(3) 表現について

テキストデータ分析から、評価に係る5つのカテゴリと造形要素に係る5つのカテゴリが作成された。評価に係るカテゴリには対照的な「シンプル」と「豪華」が含まれ、双方が「優雅」の評価との関係が比較的大きく、どちらの装いにおいても優雅さが重視されたと考えられた。この異なる表現特徴の装いに共通する要素と考えられる優雅さを品位と捉えた。数量化Ⅲ類の分析結果から、モードとしての服飾の表現として、豪華あるいは高級感あるシンプルな装い、上品で優雅な装い、豪華さが際立つ装いの三つを捉えた。デ

ザイン・コンセプトが「エレガントな装い」とすれば、それは、高級感ある衣装や豪華な衣装を品位を持って装うことであったと理解し、装いにおけるコンセプトに係る新たな知見を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 大澤 香奈子、JOURNAL DES DAMES ET DES MODES における服飾の定量的分析、繊維製品消費科学誌、査読有、Vol. 52、No. 6、2011 (研究解説、頁未定)
- ② 大澤 香奈子、森本一成、夜会服に見る流行色とモードとの係わりについて -JOURNAL DES DAMES ET DES MODES 1800-1838 を資料として-、服飾文化学会誌、査読有、Vol. 10、2009、pp. 85-92
- ③ Kanako Ohsawa、Kazunari Morimoto、The Change of Coloring of Evening Gown in Fashion Plates *Costumes Parisiens in 1800's*、INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SOCIETIES OF DESIGN RESEARCH 2009、査読有、No. 187、CD-ROM
- ④ 大澤香奈子、森本一成、色彩情報から捉えた 1830 年パリ・モードの特徴、服飾文化学会誌、査読有、Vol. 9、2008、pp. 93-98

[学会発表] (計9件)

- ① 大澤 香奈子、JOURNAL DES DAMES ET DES MODES の分析的服飾文化研究、国際服飾学会、2011年3月6日、大阪樟蔭女子大学
- ② 大澤 香奈子、ファッションプレート 'Costumes Parisiens' から見えるモードの言説、日本家政学会(中部支部)、2010年9月18日、愛知学泉大学
- ③ Kanako Ohsawa、Kazunari Morimoto、The

Change of Coloring of Evening Gown in Fashion Plates *Costumes Parisiens in 1800's*、INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SOCIETIES OF DESIGN RESEARCH 2009、2009年10月19日、COEX、Seoul KOREA

- ④ 大澤 香奈子、森本 一成、前川善一郎、*JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* に見る色彩情報とその特徴、日本繊維機械学会、2009年5月22日、大阪科学技術センター
 - ⑤ 大澤 香奈子、森本 一成、ファッションプレート 'Costumes Parisiens' に見る夜会服の色彩特徴、日本色彩学会(関西支部)、2009年2月13日、キャンパスプラザ京都
 - ⑥ Kanako Ohsawa、Kazunari Morimoto、The View of the Trend of 1830s Mode from the Fashion Plates in the 19th Century、The 4th International Symposium for Materials & Kansei in Textiles-Fashion 2008、2008年8月24日、国立雲林科技大学 台湾
 - ⑦ Kanako Ohsawa、Attribute of the mode 1830s focusing *JOURNAL DES DAMES ET DES MODES*、国際服飾学会、2008年8月21日、高山・生活文化センター
 - ⑧ 大澤 香奈子、モード誌 *JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* にみる「エレガント」について、日本家政学会、2008年6月1日、日本女子大学
 - ⑨ 大澤 香奈子、森本一成、1830年代のファッションプレート 'Costumes Parisiens' の色彩演出について、日本色彩学会、2008年5月18日、福岡工業大学
- #### 6. 研究組織
- (1) 研究代表者
大澤 香奈子 (OHSAWA KANAKO)
名古屋女子大学短期大学部・講師
研究者番号：00410697